

編集後記

本誌に今回掲載される論文と資料は、保健医療の専門家が立脚する環境、対象者と諸課題の幅広さを感じさせるものです。研究・教育機関や病院、介護保険施設で、健常者や学生・職員、疾患を有する人たち（がん患者）を対象に、以下の課題に取り組んだものです：運動負荷下での呼吸循環と運動筋酸素動態、痛みの運動機能・ADL・身体精神症状への影響、胸椎後彎姿勢と肩甲骨位置との関係、グループ学習に伴う学習動機付けの変化、運動療法指導による肩関節可動域・体組成・QOLの推移、運動・身体活動プログラムの提案。

何のために研究が行われるのでしょうか？臨床に携わる専門家にとって、それは日々の臨床での課題の発見と問題解決であり、臨床能力を高めるひとつの取り組みでもあります。2020年は日本でのオリンピックの開催、そして年頭からコロナ・ウイルスの拡散防止のため、学会・研究会が会期・開催地の変更や延期になりました。その中でも、日常の研究への取り組みは着実に行われ、その成果としての論文をご投稿いただき、編集委員の一人として感謝いたします。

今回の研究をもう一步二歩と進めていただき、診療ガイドラインや定番の教科書の1文となるような仕事に発展しますことを、祈念しています。貴重な知見が、臨床や教育の現場でのより良い取り組みにつながることを期待しています。

2020年4月1日

保健医療学雑誌 副編集委員長

刈安 誠 （京都先端科学大学）